

団体名 糸満市立糸満中学校	連絡先 TEL : 098-994-2030 Eメール: itocyu@itomanc.city.itoman.okinawa.jp
-------------------------	---

1 実践事項 (②)

タイトル:「 学びの質を高める共通実践事項 」

2 実践内容

(1) 方策1 日常化する【質的授業改善】

- ①「1人1授業3参観」「糸満中学校独自の授業参観シート」による公開授業の実践
- ②学習リーダーを中心とした「座席配置の工夫」
 - ・リーダーを中心にグループ学習や話し合い活動ができる座席配置を、担任と学級役員で決定し、学び合い高め合う授業づくりを推進する。

(2) 方策2 そろえる【組織的共通実践】

- ①「学習の規律10項目」の習慣化を図り学習を支える力を育成する。
 - ・朝の会における唱話等を通して、「学習の規律10項目」の意識を高める。

【糸満中学校学習の規律10項目】

- | | |
|--------------------------|------------------------|
| 1 ベル前着席・・・〈黙想!〉 | 2 授業の開始・・・〈お願いします!〉 |
| 3 授業中の返事・音読・・・〈しっかりと!〉 | 4 聴く姿勢・・・〈耳・目・心で!〉 |
| 5 授業での学習活動・・・〈けじめをつけて!〉 | 6 授業中の発言・発表・・・〈大きな声で!〉 |
| 7 学び合い高め合う姿勢・・・〈グループ学習!〉 | 8 認め合い支え合う姿勢・・・〈ペア学習!〉 |
| 9 授業の終了・・・〈ありがとうございました!〉 | 10 次の授業の準備・・・〈忘れずに!〉 |

②日常的な取組で学習を支える力を育成する。

- ・授業2分前着席、授業1分前の黙想、聴く姿勢など学習規律の徹底を図る。
- ・本鈴と同時に授業開始、授業終了時間厳守を徹底する。
- ・学習支援員及び地域学力向上支援事業（ゆいまー教室）講師による補習指導、生徒一人一人への個別学習支援の充実を図る。

(3) 方策3 支える【発達の支援】

①学級の日の設定

- ・日々の活動以外に、生徒同士や教師と生徒の関わる時間を設けることで、「生徒が協力し、認め合い励まし合う仲間づくり」、「生徒が主体的に学級づくりに参画する機会と自己決定できる」ことを図る。

②学級力向上プロジェクトの実施

- ・学び合う仲間として学級をよりよくするために、生徒がお互いに支え合って目標にチャレンジし、学級力の向上を図る。

③1日の振り返りシートの活用（Google Formsを使う）

- ・毎日の振り返りを蓄積し、学期末のキャリアパスポートの振り返りへと繋げることで、「自立して学習することのできる生徒」の育成を目指す。毎日帰りの会の前にGoogleFormsを使って一日の振り返りを行う。1日の授業を通して、どの教科を頑張ったどの教科に課題があったかを振り返り、自学自習の計画を立てる。（自己調整力を高める）

(4) 方策5 つなぐ【学校連携・地域連携】

①学校運営協議会（コミュニティ・スクール）の推進体制の構築と充実。

②地域行事への参加と伝統文化の継承（糸満ハーレー・糸満大綱引き）

※新型コロナにより中止のため代替案として、

- ・「糸満ハーレー聖地巡礼ウォークラリー」を実施
- ・与那嶺和直さんによる糸満ハーレーの講話
- ・糸満大綱引実行委員会副委員長の上原義隆さんが 1, 2 学年に糸満大綱引について授業を実施。

③海洋教育（海人科）として糸満の海や環境について学習する際に地域人材の活用。

- ・神谷良昌氏によるジョン万次郎講演会
- ・沖縄水産高等学校の大嶺由紀先生を招き、小中連携もかねて海洋教育について講話。
- ・地域清掃活動を通して、地域の環境についての現状を理解し、自分の住んでいる地域の環境保全に寄与しようとする意欲を高めた。(1 学年)
- ・地域の防災減災教育(海洋災害等における人命救助体験及び講話、NIE 活用のワークショップ)

④地域と連携した、PBL 授業（課題解決学習）(2 学年)。

⑤地域人材を活用したキャリア教育

- ・1, 2 学年職業人講話
- ・オンラインでの講師招聘(大震災に学ぶワークショップ型の授業の実施)(3 学年)
- ・インクルーシブ教育 (SDG s ⑱のパートナーシップで目標を達成しよう)
車いすトラベラー三代達也氏による講演(3 学年)

3 説明資料（写真、グラフ、図、表など）



【図1 リーダーを中心としたグループ活動】



【図2 朝の学習規律 10 項目読み合わせ】



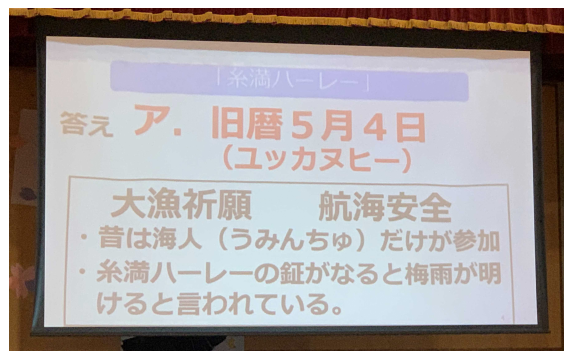
【図3 学び合い高め合う姿勢】



【図4 学習支援員による補習指導】



【図5 海人科発表会】



【図6 上原義隆さんによる授業】



【図7 海人科発表会】



【図8 PBL 授業】



【図9 PBL 授業】

4 成果

- 学級力向上プロジェクトの実施により、各学級で目標を設定し生徒が互いに支え合って目標達成チャレンジすることで、学級の団結力や問題解決力の向上につながった。
- 「授業で課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいますか」という質問に対して、78 % (6月) → 82 % (11月) と4ポイントが上がり、主体的に粘り強く取り組む姿が見られた。
- 今年初めて2学年でPBL授業を実施した。生徒が主体的に課題解決に取り組んでいる姿が見られ、授業を終えての生徒の感想からも自己肯定感が高まった様子が見られた。
- コロナ過の中で中止になったものもあったが、代替案など試行錯誤しながら地域とのつながりを意識した海洋教育などを実施することができた。

5 課題

- ほとんどのクラスが発言・発表ができる雰囲気であるが、クラスによって発言する生徒が偏っている。
- 自分で計画を立て、自学自習する習慣の確立に課題が見られた。
- 毎年、円滑に地域人材を活用できるよう職員間で情報共有する必要がある。